

## 春愁

松岡隆子

蓬萌ゆ母の声するところとは  
辺りには誰もゐなくて桜かな  
遠廻りして真つ向に春の月  
月光の蒼きを散れる桜かな  
ひとしきり後ろの闇へ散る桜  
桜咲き桜が散つてまだ逢へぬ  
屈託や蒲公英の黄の眩しくて

段取りの狂つてばかり亀鳴けり  
春愁に音ありとせばオルゴール  
先生に呼ばれて覚めて春の夢  
母の忌の母の色とし白牡丹  
暇できてマーガレットなど植うる

まだ四月半ばというのに桜が散ったあと花水木や躑躅が咲き出し、木々は若葉を吹き、季節は急ぎ足だ。卒業式や入学式、入社式もままならず、桜を楽しむこともできなかった今年の春が逃げるように去ってゆく。新型コロナウイルスの暴走は止まる所を知らず、前代未聞の緊急事態に世界中が慄いている。先の見通しが立たない現況に不安は募るばかりだが、必ず平穏な日々が戻ってくることを信じて冷静に対処したい。ウイルスと最前線で闘われている医療現場の方々に感謝しつつ、句会再開の日を待ちたいと思う。